□メシアの王国における信者の生活ルール

1.　王国の律法

(1)　基盤は、「新しい契約」（エレ 31：31～34）

エレ 31：31～34
見よ、その時代が来る―主のことば―。そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。
その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破った―主のことば―。
これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである―主のことば―。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。
彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ―主のことば―。わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」

①　31 節　*見よ、その時代が来る*　＝メシアの王国が来る
②　31 節　*そのとき*
- イスラエルがそれまでのメシア拒否の背きをやめ、イエスをメシアとして認めるとき（詩 118：26、ホセア 5：15、マタ 23：39）
- それは、イスラエルの民族的救いのときでもある（ロマ 11：26～27）
- それは、大患難期末期の 3 日間で起きる（ホセア 6：1～3）

③　31 節　*わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。*
- 「*イスラエルの家およびユダの家*」とは、イスラエル民族全体を指す。
- イスラエルの家とは、北の 10 部族を指す。ユダの家とは、南のユダ族とベニヤミン族を指す。
- 歴史的経緯：
  - ダビデ王とソロモン王のあと、王国は、エフライム族はじめ 10 部族の北イスラエルと、ユダ族とベニヤミン族（Ⅰ列 12：21）の南ユダとに分裂。
  - イスラエル全土にいたレビ族（祭司とレビ人）は南ユダについた。北

に放牧地と所有地を持っていたレビ人は、それらを捨てて移住してきた。また北の 10 部族の中からも、信仰ある人々は神殿礼拝を守るため、南ユダのエルサレムに来ることを続けた。(Ⅱ歴 11:13～16)。

- ➢ その後、北イスラエルはアッシリアによって滅ぼされ、住民はアッシリアに移された（Ⅱ列 17：23)。
- ➢ 預言者エレミヤの時代には、南ユダは、アッシリアを倒して台頭してきたバビロニアの脅威の前になすすべなく、属国となってしまう。エレ 31 章は、バビロニアによって王を交替させられ、多くの者たちがバビロンに捕囚となって移され、ユダの王は傀儡の王ゼデキヤであったとき（エレ 29：1～3）の、エレミヤの預言である。

- ● 新しい契約は、主とイスラエル民族との間で締結される。ということは、散らされているイスラエル民族が、再び集められてイスラエルが再興されるということ（エレ 30：3)、そのときのイスラエルの王は復活したダビデ（エレ 30：9)。

④ 32 節　***その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない***

- ● シナイ山で結んだ契約（出 19 章から 34 章まで）＝モーセの律法。その締結の経緯は、【25 ページ　□補足：シナイ契約の締結経緯　】
- ● 「***・・・契約のようではない***」、新しい契約はシナイ契約のようではない、とは、どういう意味か？
  - ➢ シナイ契約においてイスラエルに与えられた律法は、モーセの律法であった。そのシンボルは、十戒が記された石の板 2 枚。
  - ➢ モーセの律法は石の板に書き記されたが、新しい契約に基づいて与えられる新しい律法は、そのようなものではない。石の板にではなく、イスラエルの民一人ひとりの心の中に書き記される（エレ 31：33)。
  - ➢ 石の板に記されたモーセの律法には、それを守り行うための力を人に与えることは、なかった。それに対して、新しい律法は、イスラエルの人々の心の中に書き記される。すなわち、それを守り行う力を人に与えるということである。その力の源は、人の内側に授けられる神の霊である。預言者エゼキエルも次のように預言した。

    エゼキエル 36：26～27　***あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。***

⑤　32～33 節　*わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破った―主のことば―。これらの日の後に*

- イスラエルはシナイ契約を破り、モーセの律法に従わなかった。
  - ヨシュア記の時代、士師記の時代、サムエル記の時代、列王記の時代とイスラエルの失敗と立ち返りが繰り返され、ついにバビロン捕囚
  - 捕囚から帰還したあと、エズラ記、ネヘミヤ記で、神殿とエルサレムの再建をするも、旧約聖書の最後の巻、マラキの預言書は、「***モーセの律法を覚えよ***」（マラキ 4：4）と警告した。しかし、イスラエルは、モーセの律法に聞くのではなく、口伝律法（言い伝え）を作り、人の伝統をモーセの律法よりも重んじる方向に進んでいった。
  - マタイ 15：3　*自分たちの言い伝えのために神の戒めを破る*
- 申命記 18：18～19　メシア預言：モーセのような預言者。イスラエルの民は、メシアに聞き従うように命じられていたが、それに従わなかった。
  - マタイ 12：22～24　*そのとき、悪霊につかれて目が見えず、口もきけない人が連れてこられた。イエスが癒されたので、その人はものを言い、目も見えるようになった。群衆はみな驚いて言った。「もしかすると、この人がダビデの子なのではないだろうか。」これを聞いたパリサイ人たちは言った。「この人が悪霊たちを追い出しているのは、ただ悪霊たちのかしらベルゼブルによることだ。」*
  - マタイ 20：18～19　*人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡されます。彼らは人の子を死刑に定め、異邦人に引き渡します。嘲り、むちで打ち、十字架につけるためです。*
- *これらの日の後に*・・・イスラエルの残れる者（レムナント）を除き、大部分のイスラエル人は頑なに背き続ける。現在もその状況にある。いつまでか？
  - 「異邦人の満ちる時が来るまで」（ロマ 11：25）＝教会の携挙（Ⅰテサ 4：13～17、Ⅰコリ 15：51～52）がまず起きて、次に「主の日」（＝大患難期、Ⅱテサ 2：3）が来る。
  - 大患難期は、エレミヤの預言では、「実にその日は大いなる日、比べようもない日。それはヤコブには苦難の時。だが、彼はそこから救われる。」（エレ 30：7）
  - 「こうして、イスラエルはみな救われる」（ロマ 11：26）。このイスラエルの民族的救いのときが、31 節の「そのとき」である。

⑥　33 節　*わたしの律法*　・・・　この律法は、メシアの王国において与えられる律法である。新しい契約に基づいて与えられるので、もちろんモーセの律法

ではなく、新しい律法である。モーセの律法は、メシアが来られて（十字架の死により）、終了した。

- ヘブル 8：13　*神は、「新しい契約」と呼ぶことで、初めの契約を古いものとされました。年を経て古びたものは、すぐに消えて行くのです。*
- ガラ 3：19　*それでは、律法とは何でしょうか。それは、約束を受けたこの子孫（メシア）が来られるときまで、違反を示すために付け加えられたもので、御使いたちを通して仲介者（モーセ）の手で定められたものです。*

⑦　34 節　「*彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになる*」・・下線部の原文は、直訳すると「小さな者（＝こども）から大きな者（＝大人）まで」。イスラエル民族は、子どもでも「わたしを知る」、すなわち信者になると預言されている。王国では 100 歳までに信じなければ、不信者のまま死ぬことになるが、イスラエル人は子どものうちに皆が信じるので、イスラエル人からは不信者は一人も出ないし、誰も死なないということである。

(2)　新しい律法は、イスラエルだけでなく、世界中の民族にとって、信者の生活ルール

①　エレ 31：33「*わたしの律法*」・・・モーセの律法ではなく、王国における新しい律法。信者の心の中に記される＝神の霊が信者の内側におられて力を与える。信者に新しい律法を守り行うことができるようにしてくださる。

②　イザヤ 2：3　*多くの民族が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてくださる。私たちはその道筋を進もう。」*・・・「ご自分の道」とは新しい律法。信者にとっての生活ルール

(3)　新しい律法は、王国の法令。エルサレムから全世界に向けて発出される

イザヤ 2：3～4　*多くの民族が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてくださる。私たちはその道筋を進もう。」*
それは、シオンからみおしえが、エルサレムから主のことばが出るからだ。
主は国々の間をさばき、多くの民族に判決を下す。
彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。

王国の律法は、メシアの王国の法令の役割をもち、個人間、国家間の問題を裁く裁判の基準となる。前述（14 ページから 15 ページ）の解説のとおり。

2. 王国の律法の目的・・・正義を確立する

イザヤ 51：4　*わたしの民よ、わたしに心を留めよ。わたしの国民よ、わたしに耳を傾けよ。おしえはわたしのもとから出て、わたしが、わたしのさばきを諸国の民の光と定めるからだ。*

3. その詳細は？・・・聖書の中には、詳細な記事なし。王国が実際に建国されるときに、明らかになる。ただし、エゼ 40：5～46：24 の中で啓示されている内容は、王国の律法の一部。

(1) 40：5～43：27　メシアの王国における神殿・・・ユダヤ人のためだけの神殿ではない。イザヤの預言では、ユダヤ人と異邦人、全世界の人々のための神殿である。
イザヤ 56：6～8　*また、主に連なって主に仕え、主の名を愛して、そのしもべとなった異国の民が、みな安息日を守ってこれを汚さず、わたしの契約を堅く保つなら、わたしの聖なる山に来させて、わたしの祈りの家で彼らを楽しませる。彼らの全焼のささげ物やいけにえは、わたしの祭壇の上で受け入れられる。なぜなら、わたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれるからだ。*

(2) 44：1～46：24　　メシアの王国における祭司制度と動物の犠牲・・・その規定内容はモーセの律法とは異なる点があり、モーセの律法の再導入ではないことが分かる。異なる点としては、大祭司がいない点、君主（ダビデ）の役割が規定されている点（(45：17～46：15）など。

(3) 王国時代における動物の犠牲には、どういう意味があるのか？

① 「罪をあがなうための犠牲」ではなく、「メシアの十字架の贖いを記念するための犠牲」・・・現代の聖餐式の意味と同じ
② 王国時代の信者にとって、神との交わりの回復のため
- 神との交わりの回復の道は、現代の信者の場合は、父なる神に祈りの中で自分の罪を言い表すこと（Ⅰヨハネ 1：9)。王国時代では、罪を犯したときに神との交わりを回復するために、動物の犠牲をささげるのであろう。

【補足】私たち、教会の信者は、メシアの王国では、栄光の体を持つ者であり、内側に罪の性質はもはやない。よって、私たちは罪を犯さないので、神との交わりを失うこともなく、動物の犠牲をささげる必要もない。

□補足　**シナイ契約の締結経緯**　出 19 章から 34 章　8 段階で進んだ

1. 出 19：1～8　契約の目的と民の応答①　*民はみな口をそろえて答えた。「私たちは主の言われたことをすべて行います。」*（8 節）
2. 出 19：9～20：20　主の栄光を見、十戒を受けて、民は恐れてモーセに仲介を要請。民の応答②、「*あなたが私たちに語ってください。私たちは聞き従います。*」（20：19）
3. 出 20：21～24：3　主のことばをモーセが聞き、モーセがそれをすべて民に告げて、民の応答③　*民はみな声を一つにして答えた。「主の言われたことはすべて行います。」*（24：3）　主のことばは、「定め」（24：3）、「おしえと命令」（24：12）などと呼ばれる。十戒も含めてこれらの総体が、「モーセの律法」である。
4. 出 24：4～8　モーセが律法を書き記し、それを民に読み聞かせた。民の応答④　*彼らは言った。「主の言われたことはすべて行います。聞き従います」*（24：7）→契約締結　*モーセはその血を取って、民に振りかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに基づいて、主があなたがたと結ばれる契約の血である。」*（24：8）
5. 出 24：9～11　契約のあとの祝宴
6. 出 24：12～31：18　モーセが 40 日 40 夜、山に登り、主の「おしえと命令」を書き記した石の板 2 枚を授かった（24：12、31：18）。また、山では、モーセは、幕屋の製作についての指示を受けた。
7. 出 32～33 章　金の鋳物の子牛事件。モーセは石の板を砕き、とりなし。この期間も 40 日 40 夜（申命記 9：18、25）。
8. 出 34 章　モーセが、前と同じような二枚の石の板を持って再び 40 日 40 夜、山に登った。この中で、再契約（出 34：10「*今ここで、わたしは契約を結ぼう*」、27「*これらのことばを書き記せ。わたしは、これらのことばによって、あなたと、そしてイスラエルと契約を結んだからである。*」）。主は、その石の板に、前の石の板にあった、あのことばを書き記してくださった（34：1、28）。
   (1) 石の板に書き記されたのはすべての規定ではなく、十戒の部分であった（出 34：28　「石の板に契約のことば、十のことばを書き記した」）
   (2) 十戒は、神との関係に関する定め（第 1 から第 4、出 20：3～11）と、人との関係に関する定め（第 5 から第 10、出 20：12～17）とに区分される。石の板が 2 枚だったのは、1 枚目に第 1 から第 4、2 枚目に第 5 から第 10 が記されたため。
   (3) 第 5 の「あなたの父と母を敬え」を、「第一の戒め」とも呼ぶ（エペソ 6：2）のは、2 枚目の石の板に記された第一の戒めという意味である。